

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493600082
法人名	株式会社 エイジサービス
事業所名	グループホームいずみ別荘
訪問調査日	平成21年4月28日
評価確定日	平成21年6月1日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 4月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493600082号
法人名	株式会社 エイジサービス
事業所名	グループホーム いずみ別荘
所在地	横浜市泉区下飯田町811-4 (電話) 045-306-7593

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年4月28日	評価確定日	平成21年6月1日

【情報提供票より】(平成 21年 1月 31日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 8月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	22人	常勤 8人	非常勤 13人	常勤換算 11.2人

(2) 建物概要

建物構造	(軽量鉄骨)造り
	2階建ての 1,2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	363 円	昼食	445 円
	夕食	445 円	おやつ	80 円
	または1日当たり 1,333 円			

(4) 利用者の概要 (1月31日 現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低	69 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八木在宅クリニック 八木記念病院 湘南泉病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは横浜市泉区の郊外、新興市街地にあり、市営地下鉄下飯田駅から2～3分のところにあります。建物の前を環状4号線が走っており、電車でも車でも便利な場所です。利用者からは居室の窓から富士山や山並みがくっきりと見えるのが好評で、文字通りの「別荘」感覚で共同生活を送っています。まもなく開設後2年を迎えますが、それだけに建物もあたらしく、敷地も広く、利用者の居室、事務室ともにゆったりと作ってあります。運営は現地の職員に任せ、運営会社は別の仕事を持っているのが多いのですが、このホームでは現地の職員だけに任せず、関連医療法人の本部長である運営会社の代表者と管理者と一緒に運営しているのが印象的でした。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回初めての外部評価です。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回初めて自己評価を行いました。それぞれの階の担当する職員が記入して、それを1階は管理者が、2階はフロアリーダーがまとめました。自己評価、外部評価の結果は毎月のユニット会議で報告する予定です。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>横浜市泉区は行政が運営推進会議の開催に関与しており、地域包括支援センターで3ヶ月ごとに個別の事業所ごとに開催し、その後、全体会議を開いています。会議の印象では、認知症に詳しくない家族が多いため、認知症の理解を深めることに時間を割いています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には、面会時に利用者の普段の様子を知らせると同時に、盆や暮れには挨拶状と様子を送っています。面会した家族から直接に利用者の話を聴きたいので、家族の面会を待ち、そのため見直しの了解の同意が遅れることがあります。運営会社からはインターネットのホームページでホームのイベントの様子を知らせています。金銭を使う場合は、事前に家族の了解を取っています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、回覧板が回ってきて、自治会からよくイベントのお誘いを受けます。ただ事業所の車が小さいため、あるいは夜のイベントであるため参加はなかなか難しい状況です。昨夏は庭でバーベキュー・パーティーを開き、家族やボランティアを招いて皆で楽しみました。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営会社の代表者と事業所の職員が一緒になって、グループホームの理念を追求して運営していこうとする前向きな姿勢を感じました。		グループホームの位置づけが地域とともにその人を支えていくという姿勢に変わりましたので、その点を明確に表せるような理念を検討・追加する事が期待されます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の日勤・夜勤の申し送り時、職員同士の会話の中、あるいは月1回のそれぞれの階のユニット会議の席上で、職員同士でお互いの行動を理念に照らし合わせて見直しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、自治会からよくお誘いを受けます。ただ事業所の車が小さいため、あるいは夜のイベントであるため全員での参加はなかなか難しい状況です。昨夏は庭でバーベキュー・パーティーを開き、家族やボランティアを招いて皆で楽しみました。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めて自己評価を行いました。それぞれの階の担当する職員が記入して、それを1階は管理者が、2階はフロアリーダーがまとめました。外部評価の結果は毎月のユニット会議で報告する予定です。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横浜市泉区は行政が会議の運営に関与しており、地域包括支援センターで3ヶ月ごとに個別の事業所ごとに開催し、その後、全体会議を開いています。会議の印象では、認知症に詳しくない家族が多いため、認知症の理解を深めることに時間を割いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、行政の担当者に出るだけ現地に足を運んでもらって指導を受けたいと考えていますが、グループホームの数が多い為、行政の担当者と行き来するまでには至っていません。また行政が関与している利用者はいません。事業所は行政の担当者にはホームのイベントにも参加してもらいたい意向です。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、面会時に利用者の普段の様子を知らせると同時に、盆や暮れには挨拶状を送っています。運営会社からはインターネットのホームページでホームのイベントの様子を知らせています。利用者がお金を使う場合は、事前に家族の了解を取っています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前に利用者の薬を投棄する際に、家族との連絡がうまく行かずに、家族と重複してしまったことがありますが、こちらの連絡不行届きで謝罪したことがあります。どんな小さなミスでも運営に活かしたいと思っています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、利用者へ不安を与えないようにできるだけ少なくなるように努めています。それでもやむをえず退職する際には、利用者へ配慮して敢えて声をかけず、利用者から「お休みかな」「最近みかけないね」と、随分後から話題が出るようにしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は管理者の必修講座しか出席できておりません。その場合はシフトを調整して出席しやすい体制作りをしています。ファックスで来た研修の案内状や回覧物は事務所内のタイムカードが置いてある所に置いて、職員の誰の目にも触れやすいようにしてあります。		職員の育成として検討している交換研修の実施や、職員の年間研修計画を作成するなど、職員のモチベーションを高める努力に期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム連絡会あるいは研修を通じて同業者と意見交換をしています。5月の連休明けに他のグループホームとの交換研修を検討中です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>施設の見学に加えて、1週間のお試し宿泊を設定して、ホームの雰囲気、サービスに納得して入居してもらっています。家族には、ケアマネージャーを通じて利用者の状態をお話するほか、運営会社の代表者、管理者から、入居に当たって不安を抱かないように、いろいろ相談をしています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員には、利用者は目上の人であることを絶えず意識して、利用者信頼関係を築くようにしています。利用者の中には園芸に詳しい人がおり、庭の草花や畑の手入れについて教えてもらったり、あるいはレクリエーションの鯉のぼりを作成の時、思い出話を語り合ったりしています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>散歩が好きな利用者が多く、重度の方はウッドデッキに出て外気浴をしています。元気な利用者とは車で一緒に買い物に行ったり、あるいは3月の花見の際には、そろって遠出をしています。お誕生会はその月に該当者が2人いても、お祝いをそれぞれの日にするようにして誕生日を大切にしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回の上下階に分かれたユニット会議の後でケア会議を開いています。上階はフローリーダーが、下階は管理者がまとめています。その記録はケア会議と利用者の個人ファイルに保管しています。ケアプランには、毎日一緒にいることが多い職員サイドからの情報が多く書かれています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則3ヶ月おきのモニタリングののち、6ヶ月に1回見直ししており、見直しは家族の同意を得ています。状態に変化があった時はその現状に合った見直しをしています。面会した家族から直接に利用者の話を聴きたいので、家族の面会を待ち、そのため見直しの了解の同意が遅れることがあります。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり、看護師による健康管理および24時間安心した生活が出来る体制がとられています。運営法人グループ内には訪問診療、訪問看護のクリニック、介護療養型の病院もあり、医療面での安心を提供しています。入院時には、病院関係者や家族と連携し、柔軟な支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、ホームの往診医とすることで、利用者、家族の了解が得られており、月2回の健康管理が実施されています。また、必要に応じて専門医の紹介をしています。入居前からのかかりつけ医の受診をしている方もいます。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、本人および家族へ説明しています。職員間では、受診票や申し送りノートにより情報を共有し、詳しいことは本人の状況に応じて医師を交え、必要に応じて話し合っていくことにしています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切にした言葉づかいや対応を心がけています。職員へは、管理者がその都度言葉かけをしたり、ミーティングで話題にして注意を促しています。個人情報保護に関しては、記録の書き方や取り扱いに注意し、守秘義務を職員契約時に交わしています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	残存能力維持のために、毎日、体操や声を出すことは心がけていますが、本人の意向を聞きながら、一人ひとりのペース、生活パターンに沿った支援に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で、利用者が育てて収穫したものを調理して食べることや、出前や外食の機会を設け、食事を楽しめるように支援しています。個々の力量に応じて、調理の下準備や盛り付け、配膳、食器下げ等をしてもらっています。職員も一緒に席に着いて、いろいろな話しを交わしながら食べています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には1日おきに午後の時間帯となっていますが、希望により毎日入る方もいます。季節に合わせて、菖蒲湯や柚子湯、時にはバラを入れたり、肌の乾燥予防に入浴剤を入れたりしています。入浴を拒否される方には本人の様子をみて声かけをして誘導しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や洗濯物を干したり、たたんだり、食事の準備や食器洗い、掃除、ホームの家庭菜園など、本人の経歴や趣味を活かしたり、出来る範囲で役割をしてもらっています。また、サツマイモ掘りや収穫祭、レクリエーション、行事、外出の機会をつくり、楽しみや気晴らしの支援をしています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ホームの家庭菜園、ベランダへ出る等、戸外の空気や景色に触れています。ホームの庭は芝生が敷き詰められ、広々として見晴らしも良く、みかんの木や季節の花々も植えられて、気分転換の場所となっています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、大きな道路(環状4号線)に面しており門扉が無いいため、区の許可のもと、防犯上施錠しています。職員へは、入職時に伝えています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域で行われた避難場所へのハイキングに運営法人代表が参加し、同グループ内ホームでの救急救命講習へはケアマネジャーが参加していますが、当ホームでは実施していません。消防署とも相談して、今後、消防訓練を実施する予定です。非常用袋を置いていますが、飲料水および非常食は必要量までには至っていません。		定期的な避難訓練の実施、および、飲料水などの非常用物品を必要量備蓄しておくことが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に毎回の食事摂取量、水分摂取量を記録して把握しています。食品配達業者の栄養士により栄養バランスやカロリーの計算がされています。硬さ、刻み、とろみの対応、多種類の飲み物を用意すること、残食の場合には本人に理由を聞くこと等により、必要量が確保できるように支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭やベランダをはじめ、共用空間は、すべて広くゆったりとして明るく清潔で、居心地良く整えられています。ホームの入口や庭には、季節の花や木がたくさん植えられています。畳の間も用意され、そこには、立派な節句飾りや5月人形が飾られ、リビングの壁には、利用者の作ったほのぼのとした鯉のぼりの作品が飾られました。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と相談し、テレビやタンス、仏壇などが持ち込まれています。また、お花が好きな利用者は居室で育てるなど、居心地よく暮らせるようになっています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいずみ別荘
(ユニット名)	つるの間
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市
記入者名 (管理者)	長崎由美子
記入日	平成 21 年 4 月 9 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	世のため、人のため、入居者、家族、職員の満足度を追及する	入居者、家族、職員との話し合いを大切にしています、
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時、話し合い、月1回のユニット会義で取り組んでいます、	つづけて取り組んでいきたいと思っています、
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で活動状況、実施報告し、家族、地域の意見を聞き理解していただけるよう取り組んでいます、	今後も範囲を広げていきたいと思っています、
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時挨拶を交わしたり、散歩時の休憩場所を提供していただいています、	範囲を広げていきたいと思っています、
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域活動参加に努力しています、(回覧板)	今後も地域活動に数多く参加したいと思っています、

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議にては、町内会長とは話し合ってはいますが、まだ実現していません、		実現出来る様に努力していきます、
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組み中です		話し合いの機会を増やしていきます、
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、町内代表、区のケアマネよりの意見をホームに持ち帰り、職員全体で話し合っています、		送りノートに記入したり、ユニット会議などで話し合っています、
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議では、お話する機会はあるが、連携は取れていない、		行き来出来るようにしていきたい、担当者の方にもホームのイベントなどに参加していただきたいと思います、
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要と感じたときには、代表、ケアマネ、職員で話し合う機会を作っています、		即時、話し合いを作っています、
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	アンケート調査に参加(神奈川県高齢者あんしん介護推進会)、職員同士、声掛けあったり、確認しています、		研修に参加したり、即時話し合い確認しあっています、

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前、ご本人、ご家族共に見学をしていただき、不安や疑問点をよく聞き十分な時間を取ってから、契約を交わしています、</p>	<p>ホームへの理解と協力が得られるように取り組んでいます、</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員全体で利用者からの声を聞き管理者に報告しユニット会議にて職員全体で話し合いを設け運営に反映させています、</p>	<p>気軽に話せる様にオープン体制を作っています、</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族面会の際などには、普段のご様子などお話し、何か変わった事、疾病などの対しては蜜にご家族と連絡を取っています、</p>	<p>職員の移動等については、報告書などを玄関にて閲覧出来るように設置しています、</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>即時、ご家族からの声を聞き検討し、運営に反映出来るようにしています、</p>	<p>苦情用紙を元に職員全体で検討しています、ご家族との信頼関係を大切にしています、</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表、管理者は職員からの意見や思いを会議や個別で聞き対応しています、</p>	<p>話しやすいように、普段から声掛け合っています、</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の必要性に合わせた職員配置をしています、</p>	<p>状況の変化時は職員のシフト調整をしています、</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員異動の希望などにより行う時は、利用者への不安などに配慮しています、</p>	<p>利用者、職員、信頼関係が得られるように努力しています、</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	さまざまな研修への参加を勧めています	シフト的に余裕を持ち研修を受けやすい体制作りをしています、
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム管理者を話をしたり、情報交換の機会を持っています、	他のグループホームとの交換研修を検討中です、
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々で定期的に話し機会を設けています、	悩みや相談に対応出来るように努力しています、
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況は把握出来ているが、向上心につながる様な働きかけが出来ていないです、	職員個々のモチベーションを高められる様に指導にあたって行きたいと思っています、
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にゆっくり時間掛けたり、見学時レクに参加などしていただく様声掛けしています、	代表、ケアマネ、職員が対応出来るようにしています、
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族のみの面談や見学もしていただいています、	個別の対応出来るようにしています、

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活の中で職員がご本人より直接要望をお聞きし、ユニット全体で必要性をその都度判断し対応しています、		ご本人からの訴えやすい環境を作り、日頃、職員の観察からも必要性も引き続き考慮しています
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人、ご家族へ必要な説明を行うと同時に職員員全体へ申し送りノート等を活用しスムーズなサービスが出来るように努力しています、		連絡を取りあいながら、安心してサービスが受けられる様に勤めています、
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時間を作り、それぞれの得意な事柄にあったレクリエーション、又は作業を一緒に行っています、		今以上に利用者とかかわれる時間を増やす様努力したいです
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡を取り合い、必要であれば訪問し情報を共有しています、		ご家族参加のレクリエーションを取り入れています、
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人やご家族との関係を資料や日常生活の中から読み取り、理解し対応しています、		なかなか面会に来られない利用者への対応にも配慮しています、
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会、電話や手紙等の対応もしています、		懐かしく思い起こす機会を多く出来るよう声掛けに努力しています、
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	散歩、洗濯たたみ、レク等一緒に出来るものは出来る限り一緒に参加していただけるように声掛けしています、		他の利用者の出来ない所を手伝い合う機会を作っています、

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	面会や、季節の挨拶状などを行い、お付き合いを大切にしています、		今後もつづけていきたいと思っています、
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に身体精神面の様子を職員全体で見直しを行っています、		それぞれに合った、ADLの維持、向上を目的とした生活が出来るように援助していきたいと思っています、
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルの共有、職員は情報の把握に努めています、		その人らしさを大切にしています、
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝の様子観察、軽い運動又は日常生活の中での異常に気づき、即時対応するようにしています、		職員同士、情報交換し把握に努めています、
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の希望を取り入れたケアプランを作成しています、		幅広く、意見を聞きより良い生活が出来るようにプランを考えていきたいと思っています、
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月おきのモニタリング、変化があった時はその現状に合ったプランの見直しをしています、		その時の状況に合ったプランを職員で話し合っています、

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	不安感の強い方々には、その時々々の状況を個人記録に記入し(表情、態度、行動)の情報を共有しています、		個人記録の情報を共有し、次回のケアプランに活用しています、
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族構成の把握し、常に家族との連絡を取り合い、要望に応えられるように努めています、		家族とのレクリエーション参加を多く取れいれ、ご家族と密接な関係作りに努めています、
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域に一員として町内会への行事に参加出来るように努力していますが、もっと幅広く協力機関に対応出来る様に声掛けをしていきたいと思っています、		近隣の方々とのふれあう機会を多く取り入れていきたいと思っています、
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者との話し合いはお互いに利用出来るように話は進めているが、他のケアマネとの話は出来ていないです、		職員の勉強にもなるので、他のサービス事業所とのお付き合いを大切にしていきたいです、
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	出来ていません、		今後の支援活動の中に活用出来たらばと思っています、
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療により適切な医療が受けられています、又専門医療への紹介も行っています、		ご本人、ご家族共に適切な医療が受けられるように、医師、職員話し合いを大切にしています、

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて来所されています、分からない所などは、相談や指導をいただいています、利用者からの声掛けにも気楽に対応していただいています、		その時の状況で、その都度相談、指導していただいています、
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回訪問有り、職員と情報共有し、利用者へのきめ細かい対応を常に心がけています、		利用者、職員、信頼関係が得られるように、又気楽に声掛けられるように、レク等に参加していただいています、
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関、ご家族、ホームとで話し合う機会を多くとれるように、医療機関へ出向いています、		面会やご家族からの様子を職員全体で把握出来るように申し送りノートに記入し確認をしています、
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人やご家族の意向、医師の診断などスムーズな流れがまだ出来ていないように思います、		早め早めの対応、援助が出来るようにチームでの支援を取り組んでいきたいと思っています、
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームでできる事できない事、ご家族と話し合い、次の段階への援助ができる様に援助をしていきたいと思っています、		利用者に不安を与える事がないように段階をおって準備していきたいと思っています、
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間での十分な話し合う機会や時間をもっと取り入れたいと思っています、		ご本人、ご家族、関係者間、職員での話し合える環境作りに努力していきたいと思っています、

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>誇りや傷つけない様な声掛けに気配りしたり、個別対応をしたり、記録書類などは職員全体で取り扱いに注意し声掛けあっています、</p>	<p>今後も職員同士声掛けあって注意していきたいです、</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個別対応にて、ゆっくり話を聞く時間を掛け、ご本人で判断出来る様、援助に心掛けています、</p>	<p>普段の様子の中から希望や思いをくみ取れるように会話を大切にして行きたいと思っています、</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の都合を優先になりがちですが、職員同士声掛け合い、その人らしさを大切に行きたいと思います、</p>	<p>その都度、話し合いながら、その人に合ったケアが出来る様努力して行きたいです、せ</p>
そひとに			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ホームに来られる訪問美容(カット)をお願いしています、</p>	<p>ご家族の意向もあり、ご本人の希望する美容院に行かれる様対応して行きたいと思っています、</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と共に準備を手伝って頂いたりし、又月に1回は外食や出前を楽しんでいただいています、</p>	<p>ご家族との外食も楽しみにされたり、職員との外出の時も、コーヒーを楽しまれています、</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個々に好みをお聞きし、合わせられるように努力しています、</p>	<p>行事の時などには、ビールなどお出し喜ばれています、</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄、排便コントロールの方もおり、定期的に変換、チェック、又ご本人からの訴え時には対応しています、(プライバシー重視)		個々の排泄パターンを職員全員で共有しています
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その方の体調に合わせて自由入浴して頂いています、		身体介助(2人対応)の方は職員2人で出来る時間帯になっています、
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々に合った過ごし方を支援しています、リネン交換週1回、汚れた時はその都度対応しています、パジャマなどは週2回声掛けしています、		1日の流れの中でもっとメリハリを付けたいと思っています、
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体操、歌、レク、散歩など毎日楽しんで頂いています、		気晴らしが出来るよう、もっと対応ができる様に心掛けていきたいと思っています、
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは、おこずかいはお預かりはしていませんが、ご家族と話し合いで、ご本人が持つ事で安心感を、職員把握しています、		買い物などは、事前にご家族に連絡してから、買い物に出掛けています、
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人の希望どうりにはっていない、月1回ぐらいをと思っています、		職員のシフトの関係上、その日の対応は難しく、待たせてしまうことが多いです、
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食、お花見ドライブなど年間行事を提案しています、		もっと気軽に外出が出来る体制が取れるようにしたいです、

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、いつでも対応しています、夜間帯の電話については9時とお話させて頂いています、		夜間の電話については、前もってご家族に確認を取り時間を個々に決めさせて頂いています、
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族やご友人、その他いつでも訪問出来るように、交流を深めて頂けるよう対応しています、		居室、フロアーにても楽しんで頂けるように支援しています、
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンハレンスやご家族と蜜に連絡を取り、見守り強化、拘束やもえない場合はご家族の了解を得た上で(理由、時間、)記録を取り、職員共有しています、		拘束ー安全を一番に考え、段階をふんで行っています、職員、その都度安全、又その状況に適しているか確認しあっています
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設が大きな道路に面し、門がない為玄関はオートロックにしております(区の許可いただいています)		安全を一番に考えていますが、利用者に不快を感じさせないよう努力しています、
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入る時は一声掛けたり、ノックしてからはいるなど配慮しています、		夜間帯は2時間おきの巡視を行っています、
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人にとって必要な物、楽しみにしている物などは職員と共に見守りできる様に心がけています、		個人の情報を把握し職員共有しています
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬の際、名前、日付、朝、夕など職員声掛けあいながら確認しています、食事介助の必要な方には職員が見守り、声掛けしています、消防訓練等研修には参加しています		入浴時利用者のADLに適した用具使用したりし、安全確認しています、講習、研修後は職員共有しています、消防訓練の研修には参加しているが、まだ施設にての非難訓練を実行していません、早い時期に実施したいと考えています、

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作り、ユニットごとの事務所に提示してあります、初期対応実施訓練がなされていません、		定期的に勉強会や実施訓練をしていきたいと思っています、
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常用袋の用意、セコム設置しています、3月29日に地域避難場所など地域の皆さんとハイキング研修参加させていただきました、今後職員共有し把握して行くよう話し合う予定です、		ー非難時の対応、館内経路手順を確認していく、日中、夜間共にマニュアルを作成していき、訓練を実施する、
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	危険防止への理解、ご家族にはその都度説明、理解していただけるよう話をさせていただいています、		ヒヤリハット、報告、記録など職員把握しながらその都度話し合っています、
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、変化があれば様子観察強化し、看護師、医師などに相談しています、		職員共有できるように、個人記録、送りノートなどで申し伝えていく、
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも観ることが出来る様に処方箋を事務所に置き、処方が変わった時は薬の説明と共に送りノートに記録しています、		変更時など職員確認しながら支援しています、
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量の管理、毎日の散歩、運動参加、牛乳、センナ茶の摂取など、工夫しています、		利用者の中には排尿、排便コントロールして行く方もあり医師の指示のもとに援助しています、
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けにて口腔ケアをして頂いています、仕上げに職員が援助している、又週1回ポリデント実施しています、		歯科受診も定期的に行っています、

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分表、食事摂取表にて記録集計をし、残された物に対してどうだったのか、ご本人に聞くなどとしています、		個々の食事が違う為、その人に合った量で対応しています、(硬さ、キザミ、トロミ)など、対応しています、
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は手洗い、うがい実施し、年に1度は健康診断実施、インフルエンザの予防接種など行っています、区の感染症研修に参加しています		感染症、職員分らない時は医師に相談し勉強会をして頂いています、職員全体で行いたいと思っています、
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は前日に届き、届いたら直ぐに保管する、毎夕まな板、ふきん類は消毒実施しています、		食器などは毎食後乾燥機にて消毒しています、
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者、ご家族、近隣の方が気軽に訪問しやすい様に、玄関に花を飾り、アットホームな感じになる様に努めています、		玄関に利用者の作品を飾るようにしています、
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭などには利用者と花を植えたり、季節感をあじあってもらえるように努力しています、フロアーにも季節感を感じれるようにレクにて作品を作り飾っています、		庭の隅には利用者の家族の方が野菜を植えていただいているので、利用者と共に管理し収穫を楽しまれています、
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにては、食事を楽しまれたり、レクを楽しまれたり、1人でTVを見たりも出来、思い思いに過ごされています、		リビングをもっといろんな物に活用できたらと思っています、

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が住みやすいよう援助しています、		転倒などで危なくないように配置は相談しながら援助しています、
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに窓を開けたり、消臭剤等置き対応しています、日中、夜間職員が室温調整を確認しています		暖房使用時期はぬれタオルや加湿器などで対応しています、
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、お風呂などには介助バーなど設置しています		その人が楽しみながら生活ができる様に援助ができる様に努力しています
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々に合った援助に心がけています、失敗をしても次に結びつけられるように援助しています、		自立して暮らせるように職員話し合っています、
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは日光浴をしたり、お茶を楽しまれたり、夏などはスイカ割りなどレクにも活用しています、		庭の芝生の活用が少なく、今後いろいろなレクに活用していきたいと思っています

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームの特徴を生かし、家庭的な雰囲気や大事にし、利用者さまに生活していただけるようにしています、職員間の連絡を密に行い、情報を共有

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいずみ別荘
(ユニット名)	かめの間
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市
記入者名 (管理者)	飯田 裕子 (2Fリーダー)
記入日	平成 21 年 4 月 9 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いずみ別荘の理念 「世のため 人のため、入居者 家族 職員の満足度の追及をする」		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者の声をもらさないように、思い、考えを尊重する為、職員で情報を共有し、入居者の希望に沿えるようなケアを常に考えている。		現在、御家族に対しての満足度の追求が出来ていない。定期的に家族との面談、家族の声を聞く機会を設け御家族の要望にこたえていきたい。
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	インターネットによる、ホームページを作り、御家族や地域の方が観覧できるようにしている。 御家族に対しては、ホームの役割を伝え、御家族の協力も依頼している。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	お散歩の際は、すれ違う方や 路面店をひらいてる方など相手からも、こちらからも、気軽に挨拶が出来ている。 また、近隣の方から果物を頂いたりと交流がある。		ホームを知って頂く機会が少ない為、イベントを増やし近所の方が立ち寄りやすい環境をつくりたい。
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域活動としては、駅前の植木の手入れに参加したが、ほとんど 参加できていないのが現状である。		自治会で企画している行事や地域活動に参加し、参加する事で、ホームを知っていただき、交流の機会を増やしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々に対する取り組みはまだ、考えられていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、ユニットスタッフ全員で取り組めており、それぞれが、今回の目的を理解している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度入居者の家族にも参加をして頂き、ホームの取り組みについて報告を行っています。また、他ホームの取り組みや、御家族からの意見を頂き、ホームの取り組みかたを見直しています。		地域の行事への、参加ができていない為、進んで活動の場へ参加したい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議以外 特に交流の機会を持つことはしていない。		地域の行事や活動への参加が出来る様、情報を頂き 積極的に交流をもつ。地域の方々には気軽にホームに立ち寄れる雰囲気作りをしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現時点では、学ぶ機会を持っていない。		対象者となる入居者に対して 支援できるよう 成年後見制度について学ぶ機会を作り、入居者の権利を擁護していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についてのパンフレットなど、職員全員が目を通せるようになっているが、研修の機会はまだ持っていない。入浴時など、身体チェックを行い 又、入居者に対する声掛けも虐待になるのではないかと、常に考え、対応を行っている。		発見した場合の対応方法について徹底されていない為、対応方法について、マニュアル化していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	代表取締役が対応している。	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の表情や行動を日ごろから観察し、意見をいやすい様に心がけている。又、入居者から寄せられた苦情や心配事は職員間で共有し、解決方法を考えている。入居者が希望すれば、入居者と代表が話せるよう時間をとっている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の健康状態に関しては、内服薬の変更や、医療機関に受診する場合は、報告を行っている。暮らしぶりについては、御家族面会時に都合を伺い 個人介護記録を見て頂いている。また、日常に変化があった場合、電話連絡を行っている。</p>	御家族への手紙については 年賀状しか対応できていないため、ホーム・入居者から送る機会を増やしていきたいと考えている。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	御家族が面会に来られた時や、ケアプラン説明時に苦情や、不満をお聞きできるよう、時間を取りお話を伺っている。	御家族から意見を頂き、家族と職員が協力して 入居者のケアに取り組んでいきたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員の意見を聞く為、月に1回 代表と話す機会を設けている。	会社の規約について決まったばかりで 会社自体 職員に浸透されていない。職員が不安に感じないよう、規約について理解を深めないとならない。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	入居者の状況、職員の急な休みにも対応できる勤務になっている。	入居者の個人の生活リズムに対応できるな勤務にしていきたい。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ホーム内の異動が多く、入居者が馴染みの持てる環境が提供できていない。	職員の異動を考える場合は、常に入居者の事をあたまにおき、考える必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修についての情報等はあるが、会社側から進んで研修に送り出せていない現状である、パートについても、チームの一員として会議に参加している。研修に参加した職員から研修資料の提供はあるも、勉強会などは行っていない。		職員の希望する研修又は、その職員に必要であろう研修へは、会社バックアップのもと、社員、パート問わず行く機会を設け、ホーム全体のものにする為、勉強会、報告会を行っていきようにしたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が不安等訴えてきた時は、時間をとり、ゆっくり話す機会を設けている。 職員が希望する休み、出勤は考慮している。 休憩時間を1時間設けているも、休憩時間に記録等行っており、業務から離れられない。		職員の希望する時に、有給、連休がとれるような体制を作りたい。 休憩時間には個人の自由に時間が使えるよう、時間割りを見直す必要がある。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の仕事への取り組みは把握できている。		努力した実績が何らかの形で評価されるシステムを作りたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初の面談で家族から細かな様子を伺い、本人が同席者の場合は本人にも困っている事を聴く。 本人居前にお試しで2～3日 小旅行のつもりで来ていただき、その間に希望も聞いている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初の相談から困ってる事やグループホームに求めることを伺い、その後、電話連絡もし なるべくコミュニケーションを取る様にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームで見極め、必要であれば医療との連携、他施設への提案、検討も随時行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、お試しと云う形で2～3日来ていただき入所決定としている。		入居者同士の交流を深めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーション時において、職員が知らない昭和歌謡曲などを教えてくださったり、一緒に楽しんでいる。 また、入居者の幼い頃の様子などを語れる(思い出し、懐かしむ)時間をつくっている。		介護する立場、される立場ではなく、職員が入居者から教わる立場になり、料理の作り方を教えていただいたり、漬物の漬け方を教えていただき、台所で一緒に作業出来る様にしたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何か問題が起きた場合には、御家族に相談し一緒に対応策を検討している。 職員では対応しきれないメンタル面に対しては、御家族の面会、電話を協力いただいている。		今のまま、御家族の面会等 協力して頂いている事を継続し、得た情報をケアに繋げていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会、外出、外泊は自由に行ってもらえている。 お散歩にも、御家族も同行していただいている。 年間行事においても、御家族の参加の機会をつくっている。 疎遠になっている御家族には、ホームから連絡し、面会、外出の機会を作るよう提案をしている。		御家族と入居者、ホームの交流の場を増やすように検討していく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、電話、手紙、外出などを通して、今までと変わらない関係を保てるよう対応してる。 冠婚葬祭、お墓参り等にも外出していただいている。		友人、御近所仲間など、御家族以外の交流も途切れぬよう今の状態を継続する。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの相性、能力を考え、席やレクを決めている。 また、家事手伝いにおいては、本人の物だけでなく、他入居者の物も洗濯たたみ、食器拭きなどをして下さる。		それぞれの得意分野を見つける。 利用者同士で解決できる事は、職員が手を出さず見守る事で入居者同士の関係を深めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された入居者様、御家族との継続的関わりは、現在もできていない。		今後は、御家族に、退所された後の入居者の様子などをお聞きするよう、連絡を取ったり、相談にのれる関係作りを築いていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の対話の中から思いや意向を把握出来るよう支援している。 コミュニケーション困難な入居者様は現在いらっしゃらないが、訴えの少ない方についても表情など観察を行っている。		入居者から思いや意向が出された場合、個別で対応し、思いを達成する事が出来るようにケアしていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時、お聞きしフェイスシート、アセスメントの作成には 御家族にも協力していただき、情報は共有できるように、ノートや会議を利用している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の個人記録、申し送りで状態を職員が把握出来るようにしている。 特に有する力に目を向けるよう、会議や申し送りを利用し、職員が把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者様、御家族の希望の聞き取りに姿シートを利用し、職員全員がわかるようにしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度評価を行っている。変化が生じた場合、御家族にも相談し、職員同士 意見交換しながら対応している。		長期入院後、再度ホームに戻られた場合は、すぐにアセスメントを行い、プランを立て直す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わりを持った職員が個人記録に記入している。 入居者の発した言葉や行動、表情の情報が共有出来る様になっている。		介護個人記録は、行動記録になりがちなので、表情や言葉を書く様に会議で職員にサ再確認が必要。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況により、職員が病院対応を行っている。 入院された場合、お見舞いに伺ったり、電話でお話を伺ったり、少しでも安心していただける様にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の時の余興で、ボランティアをお願いしたが、本人の意向や必要性からボランティア、警察、消防、文化、教育の協力はお願いしたことがない。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業書と連携を取ってサービスの利用につなげる支援は現在の所実施していない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとすでに入居されている方のことについて、協働する事は現在まで実施されていない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の八木在宅クリニックからの往信を基本に、専門医への受診が必要な時は、紹介状の準備をすぐにしてもらい、御家族に報告、相談し受診対応している。 受信簿を作り、入所されてからの受診		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	八木在宅クリニックの精神科Drに相談は、いつでも可能になっている。又、入院が必要な場合にも 他の認知症専門医に受診できる。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週1回看護師が滞在し、入居者様の気になるところや心配事の相談や対応のアドバイスをもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合には、何回かお見舞いに伺ったり、御家族と連絡をとりあい、状況を確認している。退院後の方針も医療機関ソーシャルワーカーと相談している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期については、協力医療機関に入院、慢性期に入って法人の医療機関に移れるよう援助する。入居時御家族に説明をしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	身体状況に急変に伴い、ホームで対応できる事、出来ない事を御家族のお伝えし、適切な対応が出来るよう、法人の医師と相談、紹介状の準備を行っている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームに入居後、帰宅願望が強い場合は、御家族の面会の協力を依頼し、時には職員も間に入り、日々の声掛けを統一するなど、早く安心出来る様に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録物については、他入居者のなまえを直接記入しないようになっている。また、記録物の管理は、カーテンで目隠しを行っている。</p> <p>声掛けに配慮し、個人にあった声掛けを行っている。</p>	<p>本人を傷つけないよう、他入居者に目立たないような声掛けを今以上に意識し、取る組む必要がある。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入浴時には、本人に着替えを選んで頂いています。お散歩のコースも入居者様に希望を伺ったりと、できるだけ、自己決定の場を用意し、希望に沿えるよう支援をしています。</p> <p>御本人の物を購入する時や、お誕生日には、御本人と買い物に行き、自ら好みの物を選んでもらっています。</p>	<p>今後、少しずつ外出、外食の機会を増やし、選ぶ場面を作っていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務を優先せず、入居者を尊重した支援ができています。</p> <p>入浴人数を固定せず、状況に合わせた対応を行っています。</p>	<p>出かけたいとの希望に対応出来るような人員の確保を常に出来るようにしたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>洋服へに更衣は、選べる方に関しては御本人に選んで頂いている。</p> <p>美容院(散髪)については、訪問美容を利用しているが、本人の希望するお店があれば行けるよう、対応を行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と一緒に、盛り付け、配膳、食器片付けを行っている。</p> <p>食事は、入居者と職員が同じ物を一緒に食べています。</p>	<p>職員と一緒におかず作りする機会を増やしたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個人の希望にあわせて飲み物を提供しています。</p> <p>喫煙を希望する方は現在入居されてませんが、飲酒については、希望があれば楽しめるよう支援しています。</p>	<p>お酒を希望される入居者様の楽しみを増やす為、居酒屋など外食の企画をつくりたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンに合わせ、出来るだけ布パンツで対応出来る様支援を行っている。又、失敗した場合についても、御本人が傷つかない様、他者に気づかれないよう対応している。トイレの位置が分からない方には定期的に声掛けを行い誘導している。		便困者にはお茶や乳製品など提供し、薬に頼らず改善出来る様支援している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	拒否の見られたときは時間、日をずらし、無理の無い支援をしている。曜日など固定せず、声掛しながらその日に入浴される対象者を決めている。行事のときは、ゆず湯、菖蒲湯など季節感を味わってもらえるよう支援している。		お風呂、温泉好きな方にはホームのお風呂以外にも 広いお風呂に入る機会を作り、気分転換を図っていただきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	御本人の意見を伺い、疲れている時には日中であっても休息を取って頂いている。 夜間眠れない方にはホットミルクを提供し、その方の生活リズムを見直し、必要に応じて医師に相談している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様の出来ることへの働きかけ、洗濯たたみ、洗濯干し、食器洗い、掃除などをお願いし、役割を果たせたことで、満足感を味わっていただけるよう支援している。月に1度行事企画を行っており、日ごと違った雰囲気味わってもらっている。		個人に合わせた役割(手伝い等)を考え、個人の能力をいかせる様、提案していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を入れた財布、又お金の入っていない財布を所持されている方はいらっしゃるが、そのお金を使えるように援助は行っていない。		職員と共に買い物に出かけ、ほしいものを御自分で購入、支払いできる環境を提供したい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩にお誘いしている。又、希望があったときには対応出来る様支援している。 買い物には入居者様も一緒に行き、買うものについて意見も頂いている。		入居者の馴染みのある店に行きたい。ホームで使う調味料など、ほとんどの物品について、入居者様と買い物に行き、入居者様の外出の機会を増やしたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様は御家族とお墓参りや温泉旅行に出かけている。		個人の希望する外出先へ行けるよう、御家族と連携をとって行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望する時に連絡をつないでいる。 訴えの頻回な入居者様については、御家族と蜜に連絡をとり、御本人の思いについてもお伝えしている。 手紙についての希望は無いが、年賀状は手作りし御自分で投函していただいた。		絵手紙、習字、墨絵などレクリエーションに取り入れ、御自分で御家族宛に手紙、はがきが出せるような援助をし、又返事が来たときの喜びが味わえるような援助をしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族以外にも友人、知人に気軽に面会に来ていただいている。 入居者様と面会者が居室にて一緒に食事を取って頂く事もある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路に面しており、部外者の侵入を避けるため、玄関は常に鍵がかかっている。 居室については、夜間御本人の希望により巡回し退室後、施錠対応しているケースもある。(中からは開錠、再度施錠は自由に来る)		2F居室の窓のレールに鍵を取り付け、1部のみ窓が開くようになっているが、個人に合わせた対応に変更したい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	監視カメラは、フロアの1部、廊下のみ映している。 台所はカウンターキッチンになっている。また事務所からもフロアの様子が見えるようになっている。 居室については個人の空間である事を意識し対応している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミで衣類や物品を切ろうとされる方がいらっしゃる為、包丁、ハサミは鍵のかかっている棚に保管している。 レクリエーションや家事など使用する場合は必ず見守りを行っている。		包丁の使用は危険だからと避けることはせず、職員見守りの中で、その方にあった家事手伝いを行って頂けるよう援助していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故 ヒヤリハットに関する情報は 1Fフロアー 2Fフロアで共有し、カンファレンスを開き、事故防止、対策に取り組んでいる。		行方不明、火災等マニュアルが無い為、作る必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている			すべての職員が慌てず対応出来る様に、勉強会や訓練を行いたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1部の職員が消防署主催の講習会に参加している。非難訓練は事業所内、地域参加のどちらも行われていない。非常用食料、水など保管されていない。		いつ起きるか分からない災害に対して、早急に避難訓練の機会を設けたい。避難時のマニュアルを作りたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	御家族との意思疎通はこまめに図っている。リスクを最小限に抑圧感の無い生活が出来る様話し合った後、御家族には面会時、電話連絡などで、リスクと御本人の生活の質についてお話し、御家族の希望も聞きながら納得していただけるようにしている。		
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人記録、バイタルチェック表、申し送りノートなどを活用し、なるべく詳細に記録し、1日3回の申し送り時にも口頭で伝え合う等情報の伝達がスムーズに行われるよう努力している。		ささいな気付きでも、職員同士で把握しておく事で異常を早期発見できるように、今後も報告、記録をまめに行いたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐ為に、個別、時間帯別に管理している。服薬内容についても、何時でも閲覧できる場所に薬説明書ファイルを置いている。頓服薬、服用時は特に経過を個人記録に記載している。		薬をセットする職員だけでなく、全員が投薬内容を理解しようとする意志を持つようにする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を活用し、便困者の把握をおこなっている。又、便困者だけではなく、便秘予防の為に、日ごろからセンテ茶、ヨーグルト、牛乳、バナナなどで対応している。天気の良い日は散歩も行っている。		現在はラジオ体操が不定期に行われているが、毎日の日課として取り入れて行きたい。午後にも軽い体操が行えないか考えて行きたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食時、口腔ケア当番の職員が声掛けや、援助を行っている。義歯を夜間にお預かりしてボリデント消毒を行っている。歯科医との取れている。(歯科専用の申し送りノートを活用している)		現状維持。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は栄養士が栄養バランスを考えたメニューで食材配達をしてくれる業者に外注している。 台所にホワイトボードを設置し、食事形態や嗜好を明記している。 1日の食事、水分摂取量はチェック表に記入一人一人確認できている。		食事の様子を観察し、個人の食事量や状態、嗜好を把握し体重にも注意していきたい。 食事やお茶は自由にお変わりが出来る様、テーブルごとにお茶入り急須を置いている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	台所や事務所などにアルコール消毒剤を設置し、こまめに消毒している。 入居者、職員はインフルエンザの予防注射を行っている。 排泄介助や口腔ケアの際は、使い捨て手袋を使用している。 帰苑時は手洗い、うがいを行って頂いている。		手すりなど入居者、職員が手を触れる所の消毒を徹底していきたい。 感染症についての勉強会を開く(研修に行く)
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日まな板、ふきん、台フキンを消毒している。 口腔セットについても消毒を行っている。 外部注文している食材について、届いた時に いたみが無いか確認している。		冷蔵庫内の整理日などは決められていない。 実施チェック表を作成し衛生管理に取り組んで行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者、家族が使いやすいよう広さを取り、段差のない玄関にしている。 椅子を置き、靴を脱ぎ履きしやすいようにしている。又季節の花を置き明るき環境づくりをしている。		家族の使用されるスリッパ等汚れが無い様、定期的に確認を行っていく。 引き続き 植物を置き、季節感を味わって頂きたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた壁画作りを、入居者と一緒にしている。 1日1回空気の入替えをしながら、廊下、フロアの掃除を行っている。トイレについても、1日1回以上掃除を行っている。		入居者個人の能力に応じた壁画の飾り作り、作品作りを行い、落ち着きを感じ、季節感のある環境を作って行きたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が個室であることで、一人になれる空間は確保されている。 日中思い思いにフロアで過ごされ、食事の時とは違う席で過ごすことも出来る。		ソファや、食堂とは違うところで、入居者同士が談話したり、くつろいだり出来る空間が不足しているので、確保していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの有るもの(家具や食器)を持ってきて頂く様依頼しています。 中には仏壇を持って来られたり、個性ある環境になっている。		御本人が今までの生活上、使っていたもの、今後も使いたいもの、ホームに持ってきたい物を自宅に戻り、自分で選んで持ってこられるような援助をしたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除を行う時やシーツ交換時には換気を行っています。又訪室した際に室温の確認を行い、入居者の声を伺いながら、窓を開けたり、エアコンで温度調節を行っている。		乾燥時期の湿度の対応について考えていかなければならない。
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の動きに合わせた家具の配置になっている。 洗面台が2ヶ所あるが2つとも同じ高さになっており、身長のない入居者が洗面をする場合不便がある。 トイレにおいて1ヶ所自動で流れる物になっており、流す作業が行えていない		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のドアに名前を記入した紙を貼り、動きがスムーズに行くよう対応している。 声掛けは分かる力により変えている。例(散歩に行きます。散歩に行くので、コート手袋持ってきてください。一緒に準備しに行きましょう)		入居者のわかる力を見極める前に、手を出しすぎていることが多いので、介護者は入居者が何が出来て、何が出来ないか混乱の原因を観察できる力が必要なことを意識して援助していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	2階のベランダがあり、外の景色を眺められるようになっている。 ほうもんしゃ(面会者)を見送る時は庭までいけるよう対応を行っている。 庭にある畑の野菜やみかんを収穫している。		芝生の庭があるがうまく活用できていない 天気の良い日は昼食やお茶を庭で取れるような活用方法を考えいきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)